

ポップコーンパパ 子どもイベントに参加しませんか？

ポップコーンを作ったり、袋に詰めたり、販売したり。子どもたちがポップコーン屋さんになれる一日です。

日時： 4月21日(日)
10:00~16:00

場所： POPCORN PAPA cafe&factory(中央区上町1-3-10)
地下鉄「玉造」駅1番出口徒歩7分

参加費： お一人500円

持ち物： お弁当・水筒
エプロン・三角巾

定員： 10人



イベント内容

午前中は保護者の方にプレゼントするギフトボックス作りをし、午後は実際に子ども達にポップコーンを作って貰ったり、ポップコーンの販売をしていただきます。

申込 株式会社Dreams 担当:宮崎
 ☎:06-6761-4417 E-mail: info@popcornpapa.jp

親子で体験「古代の仕事」&交流会

昔の人たちはどんな仕事や遊びをしていたのでしょうか。物作りを通して歴史に興味を持ってもらいたいと思い活動しています。小さなお子様でもご参加可能です。(対象は幼児~小学生くらい)

日時： 4月4日(木)
10:30~12:00 作ってみよう
粘土でまがたま、縄文ミサンガ、牛乳パックで作る弥生コースター
13:00~15:00 皆で楽しく交流会

場所： SMBCコンシューマーファイナンス株式会社
 梅田お客様サービスプラザ(北区芝田1-1-3「阪急三番街」)
 阪急「梅田」駅徒歩3分 地下鉄「梅田」駅徒歩3分

参加費： 無料 **参加対象：** 関西に避難中の親子10組(先着順)

申込： メール・FAXで、お名前・ご住所・電話番号・年齢(特にお子様)をご記入の上、下記宛先にお送りください。

NPO(非営利活動団体) OSAKA ゆめネット
 ☎:080-3767-3069 FAX:06-6371-7796
 E-mail:osaka_yumenet@ybb.ne.jp

主催 NPO(非営利活動団体) OSAKA ゆめネット
協力 ドキドキ考古学 大阪市北区社会福祉協議会

4月のCafe IMONIKAIのご案内

日時： 4月24日(水)
10:00~15:00
※12:00~13:00はお昼休みとなります。昼食は各自でご用意ください。

場所： 大阪市立社会福祉センター
 (天王寺区東高津町12-10)
 地下鉄「谷町九丁目」駅、
 近鉄「大阪上本町」駅11番出口

申込： お電話にてお名前、参加人数をお伝え下さい。
 ☎:06-6765-4041 (担当: 棕木)

編集後記

この3月をもちまして、情報紙IMONIKAI編集を担当しておりました修田は、大阪市ボランティア情報センターを退職することになりました。この情報紙を通じて、避難生活を送られている皆さんとの繋がりを感じる事ができ、自分の財産になりました。この出会いに感謝しております。私が情報紙IMONIKAIに携わるのはこの号をもって最後となりますが、今後も大阪市ボランティア情報センターは様々なかたちでの避難者支援を続けていきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



大阪に避難されているみなさんとのサロンを引き続き開いていきます。予約も必要ありませんのでフラリと覗いてみてください(*^_^*) 開催時間内であればいつでもお越しいただけます。当日は、アロマやハンドケア、その他リラックスできるメニューをご用意しています！ハーブティーをいただきながら自由に語り合いませんか？(全て無料です)

「交流カフェおおさか」

日時	場所
平成25年 4月20日(土) 13:30~15:30	ECCコンピュータ専門学校1号館3階 (北区中崎西2-3-35) 地下鉄「中崎町」4番出口
平成25年 5月18日(土) 13:30~15:30	ECCコンピュータ専門学校1号館3階 (北区中崎西2-3-35) 地下鉄「中崎町」4番出口
平成25年 6月15日(土) 13:30~15:30	SMBCコンシューマーファイナンス株式会社プロミス心斎橋お客様サービスプラザ (中央区心斎橋筋2丁目6-9心斎橋福穂ビル1F) 地下鉄「なんば」14番出口徒歩4分、「心斎橋」4番出口徒歩8分

問合せ 市民フォーラムおおさか 事務局 川口・荒野・河崎
 大阪市ボランティア情報センター内 ☎:06-6765-4041
 URL <http://sforum-osakacity.blogat.jp/>

ご質問、ご連絡等は...



IMONIKAIバックナンバーもお送りできますのでご希望の方はご連絡ください。

社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内
 Tel 06-6765-4041 / Fax 06-6765-5618

≪利用時間≫
 月~金曜 9:30~20:30 土曜 9:30~17:00

≪休館日≫
 日曜・祝日・国民の休日及び
 年末年始(12月29日~1月3日)
 E-mail: ocvic@osakacity-vnet.or.jp

3.11 from KANSAIが開催されました

東日本大震災から2年。関西の人に東北の「今」を伝え、いつまでも震災を忘れることなく、関西だからこそできることを考えようというコンセプトの下、昨年につづき開催された「3.11 from KANSAI」。雨模様の日ではありましたが、多くの人が集い、サブテーマのとおり「一歩、また一歩」復興に向けて考えることができました。



← 恒例の芋煮ブース。雨にも負けず風にも負けず無事に完売することができました。東北の味もおいしく再現できるようになりました。



この催しの中で、今回も関西に県外避難をされている方の交流会を開催しました。今回の参加者は79人。それぞれ出身地ごとに分かれたテーブルで、大阪での暮らし、今後の生活、地元のこと...久しぶりに会う人も、初めて会う人も、同じ気持ちを共有しあえる場になりました。「健康不安」「住宅問題」といった共通の悩みや課題も多く話題にのぼり、「悩んでいるのは自分ひとりじゃない」ということを感じてもらうことができたのではないかと思います。



また様々な支援団体による法律や子育ての相談ができる相談ブース、アロマハンドケア・ハーブティーのリラックスブースも用意され、支援団体との繋がりを作っていただくきっかけにいただきました。今回の交流会でできた小さな繋がりが大きな輪になり、避難をされている方の「復幸」に結びついていくことを期待しています。



ご協力いただいた支援団体の皆様、企業の皆様、そして運営をお手伝いいただいたボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

参加者の皆様からはこんな声をいただきました



- ・初めての人同士でも話しやすい雰囲気だった
- ・こんなに沢山の避難者の方と知り合える場がありとてもありがたい。
- ・会いたくてもなかなか会えない人とのイベントで会うことができました。
- ・地元の人とお話しができました。色々な人と会えてよかった。
- ・同じ大熊町の人に出逢えて嬉しかったです。
- ・アロマハンドケアがとってもとっても気持ちよかったです。ありがとうございました。
- ・おもてなしカタログの企画で色々な所に招待していただき、大変感謝しております。

京都でふるさとの味はいかがですか？

京都市にて避難当事者が運営をしているカフェ「キッチン和-Nagomi-」にお邪魔してきました。

京都ならではの古い長屋を改装したおしゃれな店内は、とても落ち着いた雰囲気です。友人の家に来たよう。さっそく日替わりランチを頼みました。今日のメニューは炊き込みご飯、鶏の生姜焼き、じゃがいもの煮っころがし、菜の花のごま和え、東北風具だくさんみそ汁と、ところどころ東北を感じさせる味付けのメニューが並びます。「京都の食材で東北の味付け」という異文化(?) コラボメニューは、どれもこれもとても美味しく、どこか懐かしい味わいでした。食後のコーヒーでゆっくりと、気がつけば何時間も過ぎてしまいました。(自家製デザートもあったようですがそれはまた来たときに・・・)

近くには京都水族館、梅小路公園などもあります。暖かくなってくるこれからの行楽シーズン、ふらっと立ち寄ってみてはいかがでしょうか？



↑じゃがいもの煮っころがしは甘辛いみそが絡めてあり、とても懐かしい味わいでした。



キッチン和-Nagomi-

所在地 京都市下京区七条大宮西入西酢屋町10
営業時間 10:30-16:30(ラストオーダー16:00) 定休日はHPにて
ホームページ <http://kitchen.fucco-nagomi.com/>

方言の交差点

—東北弁と大阪弁が出会う場所—

色々な「太陽」



朝、東の方から出て、夕方、西の方に沈むものは何でしょう?「タイヨウ(太陽)」という答えが一番多そうですね。これは、天体としての呼び方です。実は、日本全国を見渡すと「太陽」の呼び方も色々あります。

北東北に多いのは「オヒサマ(お日様)」。南東北に多いのは「オテント(一) サマ(お天道様)」。天道とは天地の中心にいる神のことで。一方、大阪では「オヒサン」が多く使われます。「オテント(一) サン」と言う地域もあります。また、関西には「ニッテンサン(日天さん)」という方言もあります。日天とは仏教の言葉で太陽のことです。

東北では「～サマ」を使うのに大阪では「～サン」を使う理由については、「お豆さん」「お芋さん」といった他の大阪方言の「～サン」と合わせて考えてみるとおもしろそうです。東北の「～サマ」と大阪の「～サン」は、どちらも敬称として敬意を表す言葉です(ただし、敬意の程度は多少異なります)。そこに「オ(御)～」が付くわけですから、太陽に対して敬意を持つのは東北も大阪も同じだということですね。

いつか雲の間から太陽が見えたら、「あ、〇〇が見えた」とつぶやいてみてください。きっと、自分ならではの「太陽」の呼び方に気がつくはずですよ。

(追手門学院大学講師 榎引祐希子)

【方言募集】どんな疑問・質問でも結構です。ぜひ、ご連絡ください。

住所: 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学 榎引祐希子
E-mail: yukushib@res.otemon.ac.jp

大阪府下避難者支援団体等連絡協議会「ホッとネットおおさか」第5回拡大定例会で福島・新潟県内の取り組みに耳を傾けました

3月19日(火)、大阪弁護士会館にて開かれた「ホッとネットおおさか」の第5回の定例会。今回はゲストを招いて福島県、新潟県における避難者支援の取り組みについて講演していただきました。

まずは福島県双葉郡富岡町から、富岡町生活復興支援センター「おだがいさまセンター」を運営している富岡町社会福祉協議会の職員である吉田恵子さんにお話をいただきました。富岡町は発災以来全町が警戒区域となっており、全町民約16,000人が避難生活を余儀なくされている自治体です。(2013年3月25日付けで区域再編がなされました)「おだがいさまセンター」は現在福島県郡山市に拠点を置き、仮設住宅に住んでいる町民、借り上げ住宅に住んでいる町民、県外に避難をしている町民への生活支援に取り組んでいます。

「おだがいさまセンター」では町の細やかな情報が得られるコミュニティFMラジオの放送や、それを電波の届かないところでも聞くことができるように全町民にタブレット端末を配布するなど、町民が常に町の情報を得られるような取り組みをしています。「前例がないとあきらめずに、一度やりとげる。そうすれば今後何かあったときも楽に進むことができる」という言葉が印象的でした。

大阪府内に避難をしている富岡町民は現在、23世帯・41人。吉田さんのお話の中で「仮設住宅や借り上げ住宅など県内に避難している町民にはできていた支援も、県外避難者に関してはこれまでできていなかった部分も多く、県外への取り組みが今後の課題」とおっしゃっていました。また「社協をはじめ全国とのネットワークを活かして幅広い取り組みに繋がりたい」と、大阪との連携についての意気込みを語りました。



続いて福島県福島市から新潟県へ自身も避難され、福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会会長の村上岳志さんにお話をいただきました。新潟県は福島県の隣に位置していることもあり、県内の避難者の数は5724人。全国の県外避難者のおよそ1割を占めており、そのほとんどが福島県からの避難者です。新潟市内に常設の避難者交流施設である「ふりっぷはうす」を設置し、これまでのべ9000人ほどの利用があったこと、避難者自身が手がけるフリーマガジン『FLIP』を月1回程度発行し、県内の生活情報やイベントの案内を広く出していくなど独自の取り組みをご紹介いただきました。

村上さんは「様々な価値観や判断を尊重することが重要」と話し、避難者とひとくりにせず様々な状況の人がいることを、避難をしている当事者として改めて発信していかなければならないと口にしていました。



福島県、新潟県それぞれのお話を聞き、大阪の避難者への必要な支援について大きなヒントを得ることができたのではないかと思います。これからもより多くの人々の力を合わせ、避難をされている方々が安心して過ごせるよう、様々な課題に取り組んでいきます。

ホッとネットおおさか定期便をこれからも継続してお届けしていきますので、ぜひ目を通してください！

